

Next Innovation.

香川大学発 研究シーズ活用レポート

Kagawa Univ. Case Study No.
KAGAWA UNIVERSITY
05



実証実験時にタブレットとロボットを搭載したタクシーと、八重樫准教授。

属性と位置情報から、最適コンテンツを提供 タクシー搭載の観光ガイドシステム「KaDaxi / カダクシー」

香川大学創造工学部 八重樫研究室

近年、観光地としてのブランド力を増しつつある瀬戸内の島々。中でも小豆島は、オリーブ、醤油、そうめんなどのグルメ、マリンレジャーに、寒霞渓、棚田、農村歌舞伎などの絶景と島文化も溢れる地として注目を集めています。けれど島に散らばる観光ポイントを要領よく巡るのは至難の業。レンタサイクルでは遠くに行けな

い、定期バスを使用すると行動範囲も時間も制限される。となると、タクシーは重要な移動手段になります。小豆島ではドライバーが簡単な観光ガイドもしてくれますが、ガイドスキルにはバラつきがあり、インバウンドはほぼ対応できないというのが現状です。そこで考えられたのが、「KaDaxi / カダクシー」。日本語、英語・中国語を選べ、位置情報に基づいて近隣の最適な観光ガイドを提供するシステムです。ガイドしてくれるのは運転席後部に設置したタブレットとロボット。初期画面で言語を選択すると、近隣の観光情報がインターネット上のライブラリから選り出され、コミュニケーションロボット「BOCCO(ボッコ)」の温かみのある声が、選択した言語で情報を伝えてくれます。「提供するの、地元だから知りうる今まさに旬な

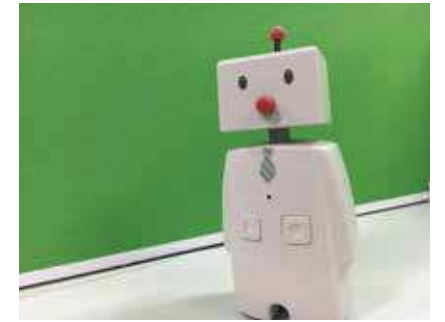
ローカルの情報。インターネットはグローバルな情報へのアクセスは得意だけど、ローカルの今まさに旬な情報へのアクセスは苦手です。そんな旬なローカルの情報へアクセスする仕組みが観光活性化には必要不可欠です。」と言うのは創造工学部の八重樫理人准教授。このサービスは、八重樫研究室の学生と八重樫准教授、小豆島でモバイル回線事業を行うSTNetが協同で開発。小豆島のかんかけタクシーの協力のもと、社会実験が進められました。

学生の斬新なアイデアが 地域企業の「挑戦」の場に

八重樫研究室では、情報システムやソフトウェア開発の基礎的な研究をベースに、教育の問題を解決する教育支援システム、観光を活性化させる観光支援システムなど、社会や地域の抱えるさまざまな課題を解決する情報システムを研究しています。「KaDaxi / カダクシー」の前にも、小豆島の名所をフォトラリーのように回り、ガイドブックの写真を観光者が撮影した写真に置き換えた世界にひとつのオリジナル観光ガイドブックを作成する観光

ガイドブック生成・印刷システム「KadaPam/カダパン」を株式会社リコーと協同で開発し、小豆島で社会実験を実施。香川県の観光活性化を目指した取り組みを行っています。「どちらも自治体(小豆島町)と香川大学、企業で実施した産学官連携事業。産学官が共創し、新しいプロダクトやサービスを生み出す取り組みや、地域の解決を目指した取り組みを実践する場が地域には必要です。その場に学生が加わることで、学生ならではの斬新なアイデアが新しいプロダクトやサービスに生かされるかもしれません。小

さい挑戦かもしれませんし、そのすべてが成功しないかもしれません。ただ挑戦しなくては何も変わりません。香川大学が、産学官連携で新しい挑戦を後押しするだけでなく、その挑戦に学生も参加することで、新しい学びを得るきっかけが提供できたらうれしいです」。カダクシーの応用編として自転車周遊を支援する観光ガイドサービス「KadaChari / カダチャリ(仮称)」を開発中。来年には香川のどこかでサービス化される予定です。全ての名称共通の「Kada」は、もちろん「香川大学(Kadai)」を表しています。



地域に役立つ研究をサポートしたい。 新しい取り組みに期待しています。

株式会社かんかけタクシー
代表取締役社長
上原達也さん



小豆島はインバウンドで外国人観光客が増加していますが、タクシー業界では高齢化が進んでいます。KaDaxiの取り組みは私たちにも助かり、地域にも意義があることだと感じました。首都圏のタクシーでは後部座席にサイネージがありますが、主に広告媒体として使われています。KaDaxiの場合は観光案内ができるのがいいと思います。タブレットならお客さんが自分で言語を選択できますし、ドライバーの負担も少なくて済みます。実現化される際には、タブレットが完全に埋め込み式になると安全面でも有難いですね。香川大学と小豆島町とはさまざまな取り組みを行っており、地域でも大学生の力が役立っていることを知っていました。学生さんが頑張る姿を見て「応援したい」という気持ちもあり、今回協力させていただきました。

大学との共同研究で、「地域をHAPPYに」を一緒に チャレンジしていきたいと思っています。

株式会社STNet
経営企画室事業企画部 情報サービス企画課長
野口英司さん



八重樫准教授とは香川のIT勉強会で知り合い、その縁があって香川大学と私たちとの共同研究が始まりました。夜、研究室に集まって学生さんたちとディスカッションをしたり、小豆島で一緒に現地調査をするなど、普段の社会生活では得られない刺激をいただきました。学生さんたちの知性や感性に学ぶことも本当に多かったです。「地域の未来をHAPPYにしたい」という思いを香川にある大学と企業が一緒に実現していく、という試みの大切さ、そして手応えを感じています。今回のような大学と地域企業との共同研究が学生さんたちの活躍の場となって、ITに携わる優秀な人材が地域社会の中で育ててほしいです。今後は香川大学さまを中心に、私たちや他の企業、自治体とがタッグを組んで、より良い研究へと育てていきたいですね。

左から野口課長、工学研究科2年矢部さん、八重樫准教授、上原社長



産官学の協力があってからこそKaDaxiの実証実験が実現しました。

《研究シーズ活用のご相談は》香川大学 産学官連携統括本部

〒760-8521 香川県高松市幸町1番1号 TEL:087-832-1631 FAX:087-832-1357 Mail:tokatsu@jim.ao.kagawa-u.ac.jp